

吹奏楽団オデッセイ 出演者



Conductor	Bass Clarinet	Trombone
佐藤 俊介	飴谷 佳央里	石井 百菜美
Flute	★飴谷 純一	鈴木 英未
田畑 遼太郎	Saxophone	瀬戸 郁
★芳賀 百菜	梶谷 日奈子	土肥 有理
水野 邑美	野口 紗希	南雲 茉美花
柳田 小晴	★山本 茜	★三田 真史
Oboe	渡部 陣悟	Euphonium
富川 いず美	Trumpet	初野 麦穂
♪山本 竣平	狩野 瑞穂	林 哲広
Fagotto	小島 友紀	Tuba
♪加納 沙斗美	高橋 彩華	帯川 純平
♪北口 智子	田山 謙太郎	★佐藤 衛
Contra Fagotto	谷田部 典子	Cello
♪奥田 三香子	横松 恵理子	♪菅原 彩貴
B♭Clarinet	若杉 侑加	♪平井 一輝
石川 綾乃	★若林 孝介	String Bass
大宮 栞	Horn	♪滝澤 あゆみ
小川 敬輔	★浅井 大輔	Percussion
上家 彩華	江坂 悠	大内 莉恵
佐藤 なほか	小野瀬 春香	★菅野 ひかる
★島田 奈美	木内 眞	西田 菜緒
杉浦 えみ	澤口 実穂	♪船津 佑真
田中 莉緒	手塚 徹	♪前羽 俊亮
増渕 美穂		渡邊 里実
山口 祐未子		Piano
山崎 由佳		♪西田 未帆
		Harp
★パートリーダー	♪エキストラ	♪伊藤 舞梨



Odyssey Wind Ensemble

吹奏楽団オデッセイ 第20回記念定期演奏会

2026年 9月23日(水・祝)

13:00 開演 [12:45 - プレコンサート]

板橋区立文化会館大ホール



本日は、ご来場いただき、誠にありがとうございます。

この度、私ども吹奏楽団オデッセイは、20回目の定期演奏会を開催することができました。これも、演奏をお聴きくださるお客さま、団員を支えてくださるご家族ご友人の皆さま、かつて楽団に所属していた仲間たち、その他当楽団に関わっていただいた数えきれないほど沢山の皆さまのご支援あつてのことと、重ねて御礼申し上げます。

「オデッセイ」は、ホメロスの叙事詩「オデュッセイア」の内容から転じて、しばしば長い航海や冒険の旅を意味する言葉として使われます。私たちは、「10年・20年と続く楽団にしたい」「嵐の時でも全員で力を合わせて乗り越えていきたい」という願いをこめて、楽団名にこの「オデッセイ」を用いました。そして、ついに本当に20年、今日がようやく成人式（はたちのつどい）です。これからも広い海を往く心は忘れず、大人の楽団として活動してまいります。

さて、本日は、記念演奏会にふさわしい豪華プログラムでお送りいたします。選曲会議にて「20回だから」を合言葉に選ばれた、私たちも一度は演奏してみたかった人気曲の数々です。クラシックの名曲、吹奏楽の定番曲、映画音楽、それぞれの魅力を私たちの演奏でお伝えできましたら幸いです。

さあ、メモリアルなお祭りの始まりです。どうぞ最後までお楽しみください。

吹奏楽団オデッセイ 代表 若林孝介

カーツワイルの『シンギュラリティは近い』の出版、AI が描いた「レンブラントの新作」なる作品の公開が、ちょうど十年前。たしか AI プログラムの Alpha 碁が、世界一って言われてた囲碁棋士を破ったのも同じ頃じゃなかったかな。今じゃ AI は人間の知能を遥かに凌駕してる（ように見える）し、創造的な作品、つまり絵画も写真も動画も、もちろん音楽だって創れちゃう。もはやあらゆるものが AI で代替可能。オデッセイが人間じゃないやつらと競合する日が来るとは、なんてこった。演奏会もいずれ疑似体験とかで代替される日が来んのかね（そんなんディストピアだと思うけど）。

でも、人間って良くできてるっていうべきか（あるいは厄介というべきか）、「人間がやってるから感動する」ってところありますよね。「え、これ AI なの？じゃあ別にいいや・・・」っていう感覚。それに、ベンヤミンが複製技術によって芸術からアウラ（※芸術作品がもつ、「オーラ」ぐらいの意味です）が消え失せる的なことを（ポジティブな文脈だけど）言ってたはず。創造に燃える人間が織りなすストーリー、たった一回きりの、瞬間芸術としての演奏、一音たりとも聴き逃すまいって心意気で聴くお客さんの熱意、そして奏者・お客さんが空間を共有し、その熱意がぶつかり合って生まれる「いま、ここ」性。でも、複製技術はそういうのを全部捨象しちゃうって。AI が創った音楽なんて人間不在だし、アウラの喪失の極致じゃん。AI が創った音楽を家で聴いて心が震えるのって、あんま想像できないもんな。

それに対して吹奏楽団オデッセイには、音楽で、空気の振動で、奏者のめっちゃ頑張る姿で、容姿端麗な指揮者で、その他色んな要素で、私たちと空間を共有し、心を震わせてくれた過去十九回分のお客さんがいるのです（多謝！！ちなみにぬるっと入ってる指揮者のくだりは笑うところやで www）。複製技術の時代、AI の時代だからこそ、演奏会を開いて、そこに足を運んでもらって、みんなで音楽を共有することの価値って、むしろ高まっているのでは。そして二十回目を数える本日の演奏会。まあそりゃ団員一同わりとテンション高めなわけですよ。もうアウラびしゃびしゃ。もちろん私も（アウラのみならず本番後の汗的な意味でも）びしゃびしゃ。

ってなわけで、皆さんに二十年分のアウラにまみれて帰ってもらえるように頑張りまーす。

吹奏楽団オデッセイ 指揮者 佐藤俊介

★ ★ ★ PROGRAM ★ ★ ★



第1部

キャンディード序曲

作曲：L. バーンスタイン／編曲：C. グランドマン
[約 5 分]

たなばた

作曲：酒井格
[約 9 分]

ダンス・ムーヴメント

作曲：P. スパーク
[約 20 分]



第2部



映画音楽ステージ



20世紀 FOX ファンファーレ～

作曲：A. ニューマン／編曲：真島俊夫

スター・ウォーズ コンサート・セレクション

作曲：J. ウィリアムズ／編曲：真島俊夫
映画『スター・ウォーズ』
[約 12 分]

チム・チム・チェリー

作曲：R.M. シャーマン、R.B. シャーマン／編曲：熱田公紀
映画『メリー・ポピンズ』
[約 5 分]

ニュー・シネマ・パラダイス・メドレー

作曲：A. モリコーネ、E. モリコーネ／編曲：朴守賢
映画『ニュー・シネマ・パラダイス』
[約 7 分]

シング・シング・シング

作曲：L. プリマ／編曲：岩井直博
映画『スウィングガールズ』
[約 5 分]



第3部

楓葉の舞

作曲：長生淳
[約 20 分]

P R O G R A M N O T E



第1部

キャンディード序曲

作曲：L. バーンスタイン作曲／編曲：C. グランドマン

私たち吹奏楽団オデッセイの第20回記念定期演奏会のオープニングを飾る、世界的に有名な華やかな序曲をお届けします。

この曲は、ブロードウェイを席卷したミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」の音楽を担当した世界的に有名なアメリカ人作曲家・指揮者であるレナード・バーンスタインが1956年に発表した舞台作品「キャンディード」のために自ら作曲した序曲です。

この舞台作品自体は、ウエスト・サイド・ストーリーとは対照的に、高い評価は得られなかったのですが、キャンディード序曲は、舞台作品の粋を飛び出し、瞬く間に世界中のオーケストラで演奏される定番曲となりました。その後、アメリカ人作曲家クレア・グラントマンにより編曲された吹奏楽版が発表され、今でも幅広い世代に親しまれています。日本では、テレビ朝日系の「題名のない音楽会」のオープニングテーマとして流れていた時期もありました。

冒頭から金管楽器のファンファーレが鳴り響き、続いて木管楽器が奏でる疾走感のあるメロディが登場します。中間部ではクラリネットをはじめとした木管楽器の柔らかなメロディが会場を包み込みます。そして、一度もテンポを緩めることなく、終盤ではさらにスピードを上げ、一気呵成に終わるエネルギーあふれる華やかな序曲となっています。その曲調、そして多くの人が知っている「王道」の序曲であることから、記念演奏会のオープニングにもっともふさわしいと考えました。

あっという間に駆け抜けていく 5 分足らずの短い曲ですが、これから演奏会が始まるワクワク感を私たちとともに感じていただけたら嬉しいです。

(文責：Hr. 浅井)



たなばた

作曲：酒井格

この作品は酒井氏が高校在学中に作曲したもので、若き日の瑞々しい感性と豊かな音楽性が詰め込まれています。1988年に作曲されて以来、世代を超えて愛され続ける吹奏楽の名曲となりました。

作品は、織姫と彦星の七夕伝説から着想を得ていますが、物語をそのまま描写するのではなく、七夕という言葉から広がる情景や雰囲気を音楽で表現しています。夜空にきらめく星々、一年に一度だけ巡り会う二人を思わせるような叙情的な旋律が、「急—緩—急」の親しみやすい構成の中で色鮮やかに描かれます。

また、この作品には酒井氏が当時親しんでいたさまざまな音楽の影響が散りばめられています。吹奏楽作品やクラシック音楽、さらにはポップスまで、多彩な音楽のエッセンスが溶け込んでおり、意図的な引用だけでなく、偶然似た旋律になったフレーズもあるそうです。どこか懐かしさを感じる親しみやすい響きは、そうした幅広い音楽への憧れから生まれたものなのかもしれません。

吹奏楽ならではの色彩豊かなサウンドと、夏の夜空を思わせるきらめきに満ちた《たなばた》。どうぞそれぞれの心に思い描く七夕の風景とともに楽しみみてください。

(文責：Cl. 山口)

ダンス・ムーヴメント

作曲：P. スパーク

ワシントンのアメリカ空軍バンドの委嘱で作曲され、1995年に出版されました。4つの楽章から成り立つ、ダンスにインスパイアされた作品です。

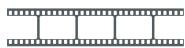
第一楽章は木琴・カバサ・タンブリン・ウッドブロックを用い、ラテン・アメリカ音楽の色彩を出そうと試みております。ホルンのメロディから始まる明るいサウンドが、幕開けを印象付けます。第二楽章は木管楽器のみで構成されており、イギリスのカントリーダンスの雰囲気を思わせます。16分音符の軽やかなリズムが、木管楽器の特性とマッチしております。第三楽章は金管楽器のみで構成されており、特定の舞曲ではありませんがクラシック・バレエの愛のデュエットを思わせる雰囲気です。ホルンとトロンボーンの印象的なソロから始まり、ブラスの柔らかなサウンドが印象的です。第四楽章はレナード・バーンスタイン作曲の「ウエスト・サイド・ストーリー」に影響を受けた楽章であり、スピード感を維持しながら緊迫した雰囲気で進んでいきます。打楽器を中心としたアンサンブルが特徴的で、最後はオーケストラ全体で華々しく終焉を迎えます。

上記の通り楽章ごとに変化する多彩な雰囲気が本曲の特徴であり、各楽器の特徴が十二分に理解された構成が魅力です。そして全ての楽器が掛け合いとなっており、相互の理解と高いアンサンブル力が求められます。吹奏楽団オデッセイの第20回記念定期演奏会に相応しい総合力の高い曲となっており、多くの練習時間を割きました。本日はそんな練習の成果を遺憾なく発揮しますので、是非全ての楽器に注目しお聴きください。

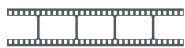
(文責：Tub. 佐藤)



第2部



映画音楽ステージ



20世紀 FOX ファンファーレ

作曲：A. ニューマン／編曲：真島俊夫

映画の幕開けを告げる音楽として世界中で親しまれてきたこの曲は、力強い打楽器のロールと、華やかに鳴り響く金管楽器が印象的なファンファーレです。短い曲でありながら、堂々とした響きと鮮やかな音の広がりによって聴く人の心を一瞬でつかみます。

このファンファーレは、映画会社のサウンドロゴでありながら、映画館で味わう「映画が始まる瞬間」の高揚感を思い出させてくれる存在です。劇場が暗くなり、スクリーンに光が差し込み、物語の世界へと引き込まれていく——その特別な感覚を、わずかな時間の中に凝縮した名曲といえるでしょう。

今回は、第2部「映画音楽ステージ」の幕開けとして、このファンファーレを吹奏楽でお届けします。華やかな響きとともに、皆さまをスクリーンを彩ってきた名曲の世界へとお連れします。

(文責：Fl. 田畑)



スター・ウォーズ コンサート・セレクション 作曲：J. ウィリアムズ／編曲：真島俊夫

A long time ago in the galaxy far, far away...

遠い昔 はるかかなたの銀河系で…

「スター・ウォーズ」好きの吹奏楽プレイヤーなら、死ぬまでに一度は吹いてみたいスター・ウォーズのメドレー。念願叶っての選曲となりました！ 映画さながら、20世紀 FOX ファンファーレから続けて演奏するという熱の入れようです。

映画『スター・ウォーズ』シリーズ全体を彩る印象的な楽曲の中から、メイン・タイトル、ダース・ベイダーのテーマ（帝国のマーチ）、レイア姫のテーマ、ヨーダのテーマ、王座の間～エンド・タイトル、の5曲を集めた本メドレー。

映画ファンもにつこりの再現度の高い編曲なのですが、その分演奏するのは非常にハード！ 推薦者は木管楽器なので、「ああ、ファンファーレ吹きたい！ うらやましい！！」と思っていますが、吹いている金管楽器の方々とはとんでもなく大変だと思います。でも、とはいえ絶対気持ちいいですね……？（笑） 第2部映画音楽ステージの幕開け、ぶちかましちゃってください！！

（文責：Ob. 富川）



チム・チム・チェリー 作曲：R.M. シャーマン、R.B. シャーマン／編曲：熱田公紀

1964年の公開以来、今なお世界中で愛され続けるディズニー映画『メリー・ポピンズ』。劇中で煙突掃除屋さんが歌う、少し切なくてキャッチーな名曲「チム・チム・チェリー」は、誰もが一度は耳にしたことがあるかと思います。

今回は、そんな名曲をジャズアレンジでお届けします。少し大人でアンニュイな雰囲気をお楽しみいただけたら幸いです。様々な楽器の格好良いソリと、トランペット、アルトサックスのおしゃれなソロにもぜひご注目ください。

（文責：Sax. 山本）



ニュー・シネマ・パラダイス・メドレー 作曲：A. モリコーネ、E. モリコーネ／編曲：朴守賢

1988年公開のイタリア映画『ニュー・シネマ・パラダイス』。シチリアの小さな村を舞台に、映写技師と少年の心あたたまる交流を描いた、不朽の名作です。推薦者は、以前見たときはそれほどハマらなかったのですが、ふとしたきっかけで10年越しに見返したら信じられない量の涙と鼻水でぐしょぐしょに……。故郷を離れ、重ねた年月の分だけ心に染みる映画でした。

エンリオ・モリコーネによる美しく、哀愁ただようメロディーに、映画を見たときの言葉にならない思いをそのまま乗せて、お届けしたいと思います。

（文責：Ob. 富川）



シング・シング・シング 作曲：L. プリマ／編曲：岩井直溥

2004年に公開された上野樹里 主演の映画『スウィングガールズ』で主人公が所属するバンドがクライマックスで演奏した曲です。この映画を見て楽器を始めた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

もともとは、1930年代のスウィング・ジャズを象徴する名曲です。「スウィングの王様」と称されたクラリネット奏者ベニー・グッドマンの演奏を通じて、世界的に知られるようになりました。

独特のリズムを刻むドラムや、有名な主題、そして終盤に観客の視線を釘付けにするクラリネットソロ、全員で吹き鳴らすクライマックスなど見どころ満載です。

客席の皆様もぜひ私たちと一緒に楽しみましょう！

（文責：Hr. 浅井）



楓葉の舞 作曲：長生淳

第20回記念定期演奏会のメインプログラムとしてお届けするのは、長生淳作曲《楓葉の舞》です。本作は、ヤマハ吹奏楽団から4年間にわたる委嘱の最後を飾る作品として2004年に作曲されました。

曲名の「楓葉」は色づく楓の葉を意味します。しかし、作曲者によれば、本作は秋の情景を描こうとして生まれた作品ではありません。ヤマハ吹奏楽団との別れや、同じ時期に退団する団員への思いが自然と音楽に影を落とし、その感傷が結果として、肌寒さを感じる秋のような静かな寂寞感を漂わせています。

冒頭を彩るクラリネットの旋律は、風に運ばれて楓の葉がひらりと舞う姿を思わせます。穏やかで透明感のある響き、一陣の風が吹き抜けるような激しさとそのあとに訪れる静けさ、深い祈りを思わせる旋律、そして終盤へ向かって少しずつ広がっていく音楽は、出会いと別れ、感謝や希望といったさまざまな感情を静かに呼び起こします。

第1部、第2部とは趣を異にし、この作品は華麗な技巧を前面に押し出すというよりも、一音一音の響きや音色の美しさを丁寧に積み重ねることで、その魅力が生まれる作品です。演奏者一人ひとりの音が重なり合い、互いに耳を傾けながら紡がれる繊細な響きにも、ぜひご注目ください。

20年という節目を迎えた私たちもまた、多くの出会いと別れ、そして支えてくださった皆様とのつながりを積み重ねながら今日を迎えました。この瞬間、このメンバーだからこそ奏でられる響きに、これまで積み重ねてきた尊い時間への感謝と、未来への願いを込めて演奏いたします。どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

（文責：Cl. 山口）

